



# 妙たえの光ひかり

通刊37号 復刊12号

1994年6月28日(季刊)

角田山妙光寺 発行  
新潟県西蒲原郡巻町  
角田浜

〒953 TEL0256-77-2025

## ホトトギス

初夏のこの季節、境内では野鳥の鳴き声が最も賑やかになる。代表的に声の大きいのがホトトギスとウグイス。ここではウグイスは七月末まで鳴いている。

ウグイスが春を告げる鳥なら、ホトトギスは南方から飛来して夏を告げる鳥として昔から親しまれてきた。全長三十センチ弱、「特許許可局」と聞こえる独特の鳴き声はすぐわかる。ところがこれが真夜中に聞こえてドキッとすることがある。人の魂を誘い出す声として昔の人に恐れのような気持ちを持たせたと、何かの本にあった。

角田山から弥彦山にかけての山塊は、平野と海の境にポツンと飛び出て渡り鳥の格好の中継地点。ことに妙光寺裏手から角田山にかけてが、県内で最も種類の多い野鳥の宝庫だと専門家に聞いた。この時期エサになる虫が多く、雛がふ化して成長するので特に賑やかなのだとも。

# 生かされている命

小川英爾

小千谷市に住む吉田タマヨさんは現在六十六才。石本家の長女として生まれ、下に弟一人妹四人の一家八人が仲良く暮らしてきた。十七才になったとき、近くにある母親の実家で三人生まれた子供のうち、ただ一人成長した長男が戦死したことで、この吉田家へ養女となった。十九才でお婿さんを迎えて結婚するが、子どもができないうちに脊髄カリエスという難病にかかる。家業の農業も勤まらないということでも十八才で離婚、お婿さんを残して自分が家を出た。

このとき生家の両親が分けてくれた土地に別れた夫が家を建ててくれたが、発病以来十五年間病院暮らしが続いた。そのうちの八年三カ月の間というもの、まったく歩くことのできない状態だった。それを救ってくれたのが、当時魚沼病院に初めて整形外科医として赴任してこられた小林先生。「僕が治してあげるよ」と何度も言われたあの時の言葉が今でも忘れられない。

以来脊髄カリエスの手術だけでも九回。そのうえアレルギー体質で薬の副作用もあったのか、胃に穴のあく胃穿孔から腹膜炎、さらに卵巣炎、肝炎、腸閉塞のときなどあと二時間で手遅れになるところといった具合で、手術だけでもこれまでに十数回に及ぶ。脊髄カリエスの強い薬で副作用が起き、先生に「あなたには気安めもごまかしも通じないからはっきり言うが、この化膿止めの薬が効かないとまず助からないから、今のうちに会いたい人がいたら呼んで来てもらいなさい」と言われたのが三十五才の時だった。「手術中麻酔が効いている中で何度か見た夢に、川があつて川向こうに実家があるから渡ろうと思うが、どこからともなく両親の声がしてどうやっても渡れない、というのが何度もあつた。あれが三途の川だったのかとも思う」と話す。

近年すっかり健康体になって、実家の弟が分けてくれた畑を耕して自分の食べるだけの野菜を作る。半日だけだがパートにも出での一人暮らし。「常々思うのは何度か死ぬ目にあつたが、自分の命は神仏から

いただいたもので寿命が来ないうちは死ねないのだということ。それだけに自分の命も人様の命も大切だということ。」

さあこの年齢になって寿命が来て死んだときはどうすればいい。亡き母が言っていたように実家の墓に入れてもらおうか。弟の嫁さんはいつも気持ち良く「義姉さん一緒に入ろうね」と言ってくれていた。ところが弟に「後々の子孫が、家の者でないのがうちの墓に入っていると言い出すと困る」と断られた。そんなものかと、友達のご主人がそうしたお墓のことに詳しいというので相談したら、実家の墓を見てくれ「他人のあなたが入るとこの家がさびれるから止めた方がいい」と言われた。

今も仲の良い妹達も皆県外に嫁いで暮らしているが、「姉さんのめんどうは喜んでいつでも見るけど、墓のこととなるとうちも一人娘だし・・・」と言う。このとき「人間生まれ来るときも一人、死んで行くときも一人、ああこれで自分も一人になれると思つて、寂しいとか、悲しいとかいう気持ちは全くなかった。でも自分の最後のけじめと落ちつき先だけは決めたいと考えてきた。」さらに「私は病気で苦勞したけど、根が呑気で思い込まない性格だから、妹達もいつも姉さん姉さんと助けてくれたし、自分の思うことが大抵かなってきた。」とも。

この吉田タマミさんは昔の人の多くがそうであったように、「家」に翻弄された人生を生きてきた。その上に病気の連続で余人にははかり知れない苦悩の連続。そんな中にあつても、持ち前の明るい性格から常に前向きに生きることが忘れない。そこで命の尊さを実感し、また人間一人で生まれ一人で死んで行くという事実をしつかりつかんだ。しかしそこで自らを卑下したり、弟妹始め他人との関係を疎ましいものと考えることなく、大切に心配りを忘れない。

『法華経・如来寿量品第十六』の中に、「つねに悲観をいだいて、心ついに醒悟す。」本当に悲しみを体験した人でなければ、目覚めることはできないとある。つらいことの方が多い私達の人生ですが、いつでも前向きに生きて行きたいものです。

それにつけても血を分けた肉親でありながら、家がさびれるからと同じ墓に入れないとする迷信に心動かされるとは悲しいことです。

## 本堂で仏前結婚式

白井栄一君（34才）  
妙子さん（34才）

六月十二日、妙光寺本堂で仏前結婚式を挙げた二人。新郎の白井英一君は三人兄弟の長男として、高校卒業後父親の建設業を手伝いながら一級建築士を取得した頑張りやで、文字通り父親の片腕である。

新婦の妙子さんは長岡市内で呉服店を営む両親の三女として生まれ、東京の短大卒業後、残って演劇やジャズダンスをやって青春を過ごした都会派的活動家。後に郷里に戻り、早くに死別した父親や嫁いだ姉達に代わって母親と兄弟婦で暮らしてきた。二年前には新潟市内に美容関係のお店を開いた。

二人が大のスポーツ好きで、同じスポーツクラブの仲間として四年前に出会いがあつて結ばれた。

白井家は初代が、知っている人も少なくなつたが“髭の題目堂”で親しまれた白井英信師。浄土真宗の家の分家

だったが、医者も見離す病気を妙光寺の題目堂で修行して治し、以後家を出て堂守りとなつた。以来白井家が妙光寺檀家となる。

その孫に当たる三代目が英一君の祖父に当たる。その弟も出家して苦学の末千葉の寺の住職となり、英一君の結婚を楽しみしながら先頃亡くなられた。

こうして仏縁の深い英一君の相手の名前が妙子さん、妙法、妙光寺と同じことから縁を感じたと、英一君の母親が仏前結婚式を思いついた。そうしたら妙子さんが「私の曾祖母が熱心な日蓮宗信者で、母が尊敬してその戒名から一字もらつてつけた名前と聞いています。私も思い出に残る式がいいからぜひに」となつた。

当日は爽やかな晴天。窓を開け放つた本堂に、緑濃い木々の間を流れる風

が入る中、住職を式長に二人の式衆、生の笙の雅楽の演奏をバックにちょうど三十分、厳かな結婚式だった。参列した四十人余りの親族も、口々に感動的だった、と。

スポーツ万能でしっかり者の二人、仏様の前での誓い通り力を合わせて頑張っていくことと思います。仏天の加護を受け、幸あらんことを祈ります。



## さらに境内が整備されます

昨年春に新潟市の遠藤茂五郎さんから大量の苗木を奉納いただき、これが一斎に花開いたこの春の一週間、桃源郷を思わせる境内でした。先頃引き続き今度は成木をご寄付下さる旨のお申し出をいただきました。

しかし植栽を考えている参道脇池の山側の土地が、未整地なことをお伝えすると、なれば造園工事一切も合わせて寄付するとの大変ありがたいお話になりました。そこで遠藤さんのご希望もあり、偶然にも東京農大造園学科の後輩に当たり、長年妙光寺の境内整備のご指導をお願いしてきた野沢清先生に設計を依頼、この程滝組を中心とする図面の一部が完成しました。

九号でもお伝えしましたように、遠

藤さんは他の浄土真宗寺院の檀家です。でも五ヶ浜生まれで、母親の生家を始め身内に妙光寺檀家が多く、幼い頃からご判様等で親しんできた妙光寺が大好き。ゴルフ場関係の会社の社長を引退された後の余生を、妙光寺の境内整備に尽力したいとお気持ちです。親族がゴルフ場、造園関係の仕事に多くついておいでで、この方達のご協力を得て都合つき次第着工下さるとのこと。

元々が長年の懸案だった、境内に入する裏山の水をどう処理するか、で始まった整備です。専門家の指導を仰ぐというところで、住職の恩師の関係で野沢先生が無報酬で東京からお出かけ下さるようになってから八年余り、皆さんのご協力で見違えるようになりま

した。この間野沢先生は皇居吹上御所新宮殿の造園を担当なさるなど、とてもご多忙になる中、緑豊かで心安らぐ山寺としての妙光寺を描いてきて下さいました。この先も楽しみにして下さい。

巻町内藤至さんから参詣者の便利なように大時計を、新潟市内野の吉田衆太郎さんから本堂に段の打敷を奉納いただきました。御礼申し上げます。



遠藤さん

野沢先生

# 題目堂 『日蓮聖人像修復、八幡大菩薩像再建』

## ご協力のお願ひ

日蓮聖人が文永八年（一二七二）十月、佐渡配流の際に寺泊から出航、風と潮に流されて角田浜の海岸に漂着されたのを縁に、正和五年（一一三三）妙光寺が創立されました。以来今年で六八一年目になります。

日蓮聖人ご漂着の折、岩屋の七面大明神を教化されることを願われたのが、老翁に身をかえた八幡大菩薩。この七面大明神ご教化の記念に日蓮聖人と、八幡大菩薩によつて書かれた二つのお題目が並んでのこる岩を『岩の題目』と呼び、題目堂という小さなお堂とともにお祀りしています。

この題目堂に安置してきた日蓮聖人像と八幡大菩薩像二体のうち、八幡大菩薩像と二、三の仏具が三年前に盗難に遭いました。警察に届けて、出てくるのを待ちましたが残念ながら今だに見つかりません。そこで八幡大菩薩像の再建と、残った日蓮聖人像の修復を行うことといたしました。いづれも木像で高さが全体で約五十センチ、両方で百万円の見積もり予算が立てられています。

つきましてはこのための浄財を、広く皆様方からご寄進いただきたくお願い申し上げます。一口五千円で二百口を予定しております。お志ある方のご協力をお願いいたします。

角田山妙光寺



角田山 題目堂

# 身延山久遠寺、池上本門寺 団体参拝旅行のご案内

身延山久遠寺と池上本門寺への団体参拝旅行を下記の要項で行ないます。今回はいつもの七面山登詣を休んで2泊3日と短縮し、さらに全行程トイレ付デラックスバス利用と参加しやすい形にしました。日蓮聖人ご入滅の地、大本山池上本門寺(東京)と、晩年の九カ年を過ごされお墓のあります身延山久遠寺をゆっくり参拝します。

檀家に限りません。ことにデラックスバスのため定員が少ないですから、早目に申し込んで下さい。

## ————— 記 —————

- ・主 催… 角田山妙光寺 旅行取扱… JTB交通公社新潟支店
- ・期 日… 10月3日(月)～5日(水)
- ・募集人員… 34名(定員になり次第メ切ります)
- ・費 用… 68,000円(全食事、寺院での参拝費用一切を含みます)
- ・申し込み… 申し込み書に申し込み金1万円を添えて各地区世話人が妙光寺へ。
- ・コース… 詳細なご案内は事前に配布します。

10/3 (月)	卷——池上本門寺(参拝・昼食)——身延、北之坊(泊) 5:30 11:00 14:00 18:00
10/4 (火)	久遠寺(ご開帳、諸堂参拝、法主猊下お経頂戴、奥之院参拝他) 13:30 ——昇仙峡観光——甲府湯村温泉、柳屋(泊) 15:30 17:00 17:20
10/5 (水)	湯村温泉——岩松院見学——小布施(昼食・観光)—— 14:20 8:30 12:00 ——野尻湖(休憩)——卷 15:30 18:00

## フェスティバル安穩に、ご参加下さい

回を重ねて第五回となったフェスティバル安穩を別紙ご案内の要領で開催いたします。前号でお知らせした日より、都合で一週間繰り上がっておりますのでご了承下さい。

今年のテーマが「人は家族以外に老後、死後を託せるか、―核家族化、少子化、シングル化が進む中で―」と一見過激に聞こえるかも知れませんが、しかし世の中の現実には確実にこの方向に進んでおり、安穩廟は死後を妙光寺に託すものです。老後も家庭や家族に頼れない状況が現実です。とすれば施設、訪問看護、ボランティア、友人、知人といった親族以外に頼

ることになります。が、まだまだその体制も不十分なら、頼る側の心の整理も十分とは言えないようです。

助言者をお願いした尾崎雄さんは著書の中で「死の臨床に立ち会ってきた医療相談者によると、多くの日本人が、最後のとき」に求めるのは、宗教より家族だということ。人間らしく死にたい人々にとつてはその家族が崩壊していることが、いちばん切実な問題である。」と書いてます。

色々な方のご意見、現場の話等を聞いて、前向きに考えあう場になればと思っています。毎回和やかな会ですので、気楽にお誘い合

わせお出かけ下さい。

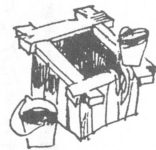
アンケート用紙を同封いたしました。趣旨は老人ホームを希望される方の数を知りたいためです。確実に不要の方には入れてありません。ご協力下さい。

振込用紙を同封しましたので、会費納入をお願いします。郵便料金値上げで厳しい状況ですが、今年も三千五百円お願いします。檀家扱いをご希望の方は一万円です。フェスティバル安穩のローソク献灯にもご協力賜れば幸いです。この場合会費に加算してご送金下さってもけっこうですが、その旨ご記入下さい。





こころのなかに……



年に一度は衣替えをかねて大掃除をします。子供が小さい頃はなかなか出来なかつたのですが、お寺に住まわせて頂いているので、いざという時には素早く行動を起こしたいし、年とともにたくさんの物に囲まれて暮らすのがうっとうしくなってきたのかも知れません。とは言うものの、小さくなつた洋服は瘦せればまた着れるのではないかとしまいこんだり、子供の絵や工作は捨てられない、あまりかわりばえのしない掃除です。でも今回は物置に積んである私の結婚する時に持ってきた私物を整理しました。今の暮らしと全くかけ離れたあの頃の暮らしが詰まつてる箱です。思い切つて処分する

ことに決めました。

最近たて続けに友人のお父さんが二人亡くなりました。二人ともまだお若いし、あつという間の出来事でした。お寺という「死」が日常的に感じられる場所に居ながら、このことはショックでした。いよいよきたなという感じでもありません。友人は「これからは残つたお母さんを大事にするわ。お父さんの分まで、お母さんと良い思い出をたくさん作らなくちゃ」と電話の向こうでつぶやいていました。

思い出つてどんなものだと思えますか。生きている間、思い出の品は自分にとってそれは大切なものかも知れません。ただ漠然と何かの拍子に死というものを考え

た時、思い出は物で残すのではなくて、目に見えないナニカで残つた方が良い気がします。だって人の荷物を捨ててしまうのは、残された人にとつても勇気のいることですから。

思い出作りを考えたら自分の生活スタイルまで変わつていくように思えます。今生きている自分がそれまでの思い出をまるごと引きずつて存在している、今日の暮らしは明日には私の中に取り込まれている。とりあえず、不必要な品物はさっぱり捨ててしまおう。身軽になつて、今度は出来るだけ思い出は心の中に残そう、と念じました。

ついでに弟子の鎌田君と前の小屋も掃除しました。古い御札の版下やお膳の道具など、お寺の歴史を物語る道具です。こちらは大切にとつておきましょう。昔の文化をしのばせる、素晴らしい財産ですから。

小川 なぎさ

# 行事案内

七月三日～十五日

東京方面お盆柵経

例年通りに住職がお伺いいたします。

八月一日(月)

お盆墓参り、施餓鬼法要

午前5時半 墓経受付開始

午前10時半 安穩廟法要

午前11時 施餓鬼法要

昼 12時 おとき

午後1時 説教

各地区世話人の方が、七月中に護持会費のお願いと施餓鬼塔婆の受付に伺います。新潟市内始め遠方の方には郵便でご案内しますので、塔婆は七月中にお申し込みの上、八月一日か後日護持会費とともにお納め下さい。

八月一三日～一六日

お盆柵経

例年通り、住職とお手伝いのお上人

が手わけして全檀家に伺います。

八月一九日(金)

岩屋七面宮祭礼

午前10時半 本堂で法要、お加持

昼 12時 続いて岩屋へ移動、法要

午後1時 おときはありませんが

参詣者全員に赤飯を供養

午後1時 説教

八月二十、二十一日(土、日)

第五回フェスティバル安穩

安穩廟の供養祭。詳しくは案内書で。

九月二十三日(金)

秋のお彼岸中日供養

午前10時半 安穩廟法要

午前十一時 秋季彼岸会法要 おとき、説教あり。

※住職不在

八月二十五日から九月一日までの間、住職の夏休みとさせていただきます。

留守番がおり連絡はつきまます。ご理解、ご協力下さい。

## あとかき

修行研修中の鎌田君も四カ月余りたつて大分慣れてきました。私が留守がちで、いても寺務仕事にいつも追われていて仲々細かい指導ができません。その間作務と称し、堂内、境内の掃除が仕事の中心になりますが、パワーがありませんからこれに関しては頼もしい限り。ことに境内作業用の薬剤散布機など機械ものとなると、こちらが弟子入りしたくなる程で、「進む道をまちがえていない？」と妻が口に出したりしています。私は「田舎の寺の坊さんは何でもやれるようであれば勤まらない」などと、自分のことを棚に上げて言っています。

それでも自分の仕事が減らないのはこれはもう性分の方です。

(小川記)